

## 珍客飛来

ウェットランドに、トモエガモ（写真）とホシハジロが飛来しました。どちらも知和堰堤の湛水域ではときどき観察されてきたのですが、知和管理棟の観察窓から見える範囲にやって来たのは初めてのことです。



トモエガモは小型の淡水ガモで、20世紀後半にその数が激減したため、世界的絶滅危惧種として国際的な保全の対象となっています。その名のとおり、目を中心にした巴模様が特徴です。

ホシハジロは中型の海ガモで、常連のキンクロハジロと同じように、潜水して採餌します。ただし、キンクロハジロが底生動物を好むのに対し、ホシハジロはおもに水草を食べているようです。今回見つけたときは、「あれ、月代をやめたヒドリガモがいるぞ」といった印象で、その初飛来に気づきました。

今シーズンの特記事項としては、ヨシガモとオカヨシガモが12月をまたずしてさかんに潜水採餌をしていることもあげられます。浅場のアオミドロ類が、夏の猛暑で老熟し、カモたちがやって来る前に大半が剥離してしまったためです。

今月の12日には冬鳥観察会を開催しますが、木曜日以外はいつでも開館していますので、気軽にお越しください。